

PRESS RELEASE

2025 年 7 月 7 日

【ブランド USA】

全米各地で今夏から 2026 年にかけて
多彩なサイクリング関連のイベントが開催

アメリカ各地で広がる“自転車旅”の新潮流～サイクリスト用の専門施設も拡充



アメリカ合衆国では、2026 年に建国 250 周年という歴史的な節目を迎えるにあたり、全米各地で“自転車旅”への注目が高まっています。次世代型の観光体験として注目されるサイクリングツーリズムは、都市部の自転車専用道を走るアーバンサイクリングや、傾斜のある山道を一気に下るダウンヒルライド、さらに海岸沿いをゆったりと走るサイクリングなど、多彩なスタイルで楽しめるのが特徴です。こうした自転車を使った観光体験の多様化を背景に、全米各地でユニークなサイクリングイベントが開催されたり、大規模なインフラ整備が積極的に進められています。アメリカの公式観光促進団体であるブランド USA では、旅行者向け公式ポータルサイト「AmericaTheBeautiful.com」を通じて、今夏から 2026 年にかけて開催予定の注目イベントや、新たに開業したサイクリスト専用施設を厳選し、その情報を公開しました。

歴史的周年に向け、全米各地で大型サイクリングイベントが開催へ

2026 年 7 月 4 日に迎えるアメリカ建国 250 周年に向けて、フィラデルフィアやワシントン D.C.をはじめとする全米各地で、記念式典やパレード、音楽フェスティバルなど、多彩な祝賀イベントの開催が予定されています。また同年、アメリカは史上 2 回目となるサッカー・ワールドカップ

プの開催国となり、ニューヨーク・ニュージャージー、ロサンゼルス、マイアミをはじめとする全米 11 都市にて、国際試合の開催が予定されています。また、アメリカ初期の国道「ルート 66」が制定から 100 周年を迎えることから、シカゴからサンタモニカまでを自転車で巡る旅にも注目が集まっています。こうした動きの中、全米を横断する全長約 4,800 キロのルートを舞台とした世界有数の過酷な自転車耐久レース「RAAM(レース・アクロス・アメリカ)」が、先月 10 日より約 12 日間にわたり開催され、世界各国から集まったサイクリストが熱戦を繰り広げました。

今夏以降、全米各地では大規模なサイクリングイベントが相次いで予定されています。今月 27 日には、ペンシルベニア州ピッツバーグのストリップ地区およびローレンスビル地区にて、地域密着型のサイクリングイベント「オープン・ストリート・ピッツバーグ」が開催されます。通常は車両が行き交う幹線道路を一時的に閉鎖し、歩行者やサイクリストに開放する本イベントでは、地域全体を舞台に、無料のフィットネスプログラムや子ども向けの自転車教室、地元の人気飲食店による屋台の出店など、さまざまなアクティビティが展開される予定です。

本年 9 月 20 日には、テキサス州コーパスクリスティにて、チャリティサイクリングイベント「コンカー・ザ・コースト」が開催されます。約 106 キロ、約 55 キロ、約 16 キロの 3 コースが用意されており、美しい海岸沿いの風景を楽しみながら、初心者から上級者まで幅広い参加者がそれぞれのペースで走行できる構成となっています。

本年 10 月 12 日には、ニューヨーク州ポキプシーを拠点に、地域の魅力を体感できるサイクリングイベント「ディスカバー・ハドソンバレー・ライド」が開催されます。約 24 キロから 160 キロまで、紅葉に彩られたハドソンバレーの自然美を満喫できる 5 つのコースが用意されており、本年も多く参加者の参加が予定されています。

全米の主要都市で自転車専用レーンが続々誕生

全米各地の都市では、地域住民と旅行者の双方が安全かつ快適に利用できるよう、自転車専用レーンの整備が進められています。シカゴでは、トレンディなリバーノース地区に新設された「クラーク・ストリート・プロテクテッド・バイクレーン」が注目を集めており、交差点には自転車専用信号が設置されているほか、歩行者に配慮した縁石の張り出しや退避スペースなどの安全対策も講じられています。現在、同市では今後 5 年間で約 240 キロに及ぶ自転車道の整備が計画されており、整備が進むことで、サイクリングの途中にショッピングエリアやカジュアルから高級まで幅広いレストラン、さらにリンカーンパーク動物園など、魅力的な観光施設へのアクセスもよりスムーズになる予定です。

カリフォルニア州サンディエゴでは、サイクリストから注目を集める新設ルート「パーシング・バイクウェイ」が、昨年夏に開通しました。クラフトビールやナイトライフで人気のノースパーク地区と、サンディエゴ動物園や歴史的な文化施設が点在する約 490 万平方メートルの広大なバルボアパークを経由し、ダウンタウン方面へとつながる本ルートでは、新たに架けられた橋をはじめ、

サイクリストの安全に配慮したインフラ整備や景観照明などが導入されています。

さらにカリフォルニア州北部では、ナパバレーを南北に貫く「ナパバレー・ヴァイン・トレイル」において、昨年夏に全長約 14 キロにおよぶ新たな区間が開通しました。この整備により、サイクリストはカリスタガとセントヘレナを結ぶブドウ畑の丘陵地帯を、ワインの香りが漂う中、心地よく走行できるようになりました。

コネチカット州では昨年夏、アメリカ東海岸を縦断する大規模なサイクリングルート「イースト・コースト・グリーンウェイ」の一部であるムースアップ・バレー州立公園トレイルに、新たに約 10 キロの区間が整備されました。本ルートは、ムースアップの町からロードアイランド州方面へと延びており、約 25 万平方メートルにおよぶ湿地帯や川、池、森林など、豊かな自然に囲まれた環境の中を走行することができます。「イースト・コースト・グリーンウェイ」は、メイン州からフロリダ州まで全長約 4,800 キロにわたり、15 の州と 450 の都市や町を結ぶ、東海岸屈指の広域サイクリングルートとして整備が進められています。

都市型公園で広がる、安全で快適なサイクリング体験

全米の大都市や中規模都市の中心部に位置する都市型公園では、車両の往来を気にせず、静かな環境で安全にサイクリングを楽しむことができる施設が整備されています。

たとえば、ニューヨーク市のセントラルパークでは、園内を一周できる自転車専用ルートを活用することで、公園内の多彩なエリアを効率よく巡ることが可能です。また、サンフランシスコのゴールデンゲート・パークでは、緑豊かな園内からゴールデンゲート・ブリッジを望む海沿いの景観へと続くルートが整備されており、自然と都市文化が調和したサイクリング体験をお楽しみいただけます。

こうした都市型公園でのサイクリングの魅力は、全米各地へと広がりを見せています。テネシー州メンフィスに位置するシェルビー・ファームズ・グリーンラインでは、約 17 キロにわたる舗装トレイルが整備され、通勤や週末のレクリエーションとして幅広く活用されています。本年 6 月には、ブロード・アベニューとナショナル・ストリートを結ぶ新たな自転車専用道が開通し、住宅地や地域商業エリアとの接続性がさらに向上しました。

また、イリノイ州シカゴのレイクフロント・トレイルでは、ミシガン湖を望む雄大な景観の中で、街のスカイラインやビーチを背景にサイクリングを楽しむことができます。今月 12 日には、障害のある方々の自立支援を目的としたチャリティイベント「サイクリング・オン・シカゴズ・レイクフロント・トレイル」が開催予定です。

さらに、マサチューセッツ州ボストンの名所「エメラルド・ネックレス」では、19 世紀の景観設計家フレデリック・ロー・オルムステッドが手がけた複数の公園が緑道で結ばれています。豊かな

自然と歴史を感じながら走れるこの特別なルートでは、本年 10 月まで、園路や緑地を巡るガイド付きサイクリングツアーが定期開催されており、気軽に参加できる体験型プログラムとして人気を集めています。そのほか、植生や歴史スポットの解説を交えたガイド付きウォークやファミリー向けイベントも行われており、自然や文化に親しむ場として地域に根付いています。

人気が高まる雄大な山岳地帯でのアドベンチャーサイクリングの魅力

起伏に富んだ地形を駆け抜けるマウンテンバイクは、冒険心を刺激するアウトドアアクティビティの一つとして親しまれています。アメリカ各地では、初心者から上級者まで幅広く楽しめる多彩なマウンテンバイクトレイルが整備されており、アパラチア山脈を擁するブルーリッジ山地のほか、アーカンソー州ベントンビル、ジョージア州エリジェイ周辺、バージニア州、コロラド州、ユタ州、アイダホ州、アリゾナ州、オレゴン州などが、マウンテンバイクの聖地として知られています。

中でも「マウンテンバイクの世界的首都」と称されるアーカンソー州ベントンビルでは、全長約 210 キロにわたって一人乗り幅のトレイルが整備されており、各サイクリストが自身のスキルに応じたコースを選んで走行できます。街全体が自転車に配慮した設計となっており、地域の温かく開かれた雰囲気が、世界中のサイクリストを惹きつけています。本年 5 月には恒例の「ベントンビル・バイク・フェスティバル」が開催され、電動アシスト自転車の試乗会やプロライダーによるデモンストレーション走行、子ども向けワークショップなど、充実したプログラムが展開され、盛況のうちに幕を閉じました。

ユタ州モアブでは、赤褐色の渓谷地帯を縫うように広がるトレイルを走行するサイクリングを楽しむことができます。さらに、本格派サイクリスト向けの人気イベント「モアブ・ロックス」が 2026 年 5 月 2 日から 4 日にかけて開催予定で、ポーキュパイン・リムやマグ・セブンなどの伝説的なトレイルを巡る、複数のコースを日替わりで走る競技形式のイベントとして、国内外のマウンテンバイク愛好者から大きな注目を集めています。涼やかな気候を求める方には、カリフォルニア州北部の山岳地帯に位置するレイクタホ周辺もおすすめで、湖畔の爽やかな風を感じながら、変化に富んだ地形の中を走行するサイクリング体験を満喫できます。

バーモント州にあるキングダム・トレイルズでは、全長約 160 キロにわたって一人乗り幅の山道トレイルが整備されており、初心者から上級者まで、さまざまなレベルのサイクリストが自然豊かな風景の中でサイクリングを楽しむことができます。また、アイダホ州のサンバレーには、標高差を活かした多彩なルートに加え、リフトを利用してアクセスできるダウンヒル専用コースなど、総延長約 720 キロにおよぶトレイルが整備されており、より本格的なライディング体験を満喫できます。さらに、先月 26 日から 10 日間にわたって開催された毎年恒例の「サンバレー・バイクフェスティバル」では、耐久レースやスキル向上のためのワークショップ、ライブ音楽、デモンストレーション走行など、多彩なプログラムが展開され、会場は多くの来場者で賑わいました。

オレゴン州では、太平洋沿岸に広がる自然豊かなエリアに、マウンテンバイク向けのトレイルが数多く整備されています。中でも注目を集めているのが「ウィスキー・ラン・トレイル」で、全長約 51 キロにわたるコースが整備されており、樹齢数百年の原生林の中を縫うように走るこのルートでは、海風と森の香りが交じり合う中、自然の醍醐味を存分に体感できます。今月 19 日から 20 日にかけては、恒例の「ライド・ザ・ダート・ウェーブ:ウィスキー・ラン」が開催予定で、全米から集まるサイクリストたちが、初心者から上級者まで幅広いレベルに対応した、レベル別の集団走行やタイムトライアルに挑戦します。地元のクラフトビールやフードトラック、ライブ音楽とともにレースを盛り上げる、地域色豊かなイベントとして親しまれています。

アウトドア人気とともに注目集まる、キャンプ&サイクリング体験

アメリカでは、夏のアウトドアアクティビティとして、サイクリングとキャンプを組み合わせた過ごし方が人気を集めています。全米各地のキャンプ場では、サイクリスト向けのトレイルが整備されているほか、充実した設備も備わっており、大自然の中でゆったりとした時間を楽しむことができます。たとえば、オレゴン州にあるバンクス・バーノニア・ステート・トレイルは、全長約 34 キロにわたる人気のハイキング&バイキングコースで、バンクスとバーノニアという 2 つの町を結んでいます。沿線には、テント泊や RV(キャンピングカー)で滞在できるキャンプ場も通年で営業しており、四季折々の自然に囲まれながらアウトドアを満喫できる環境が整っています。

また、同州ワシントン郡にある L.L.スタブ・スチュワート州立公園では、キャンプやマウンテンバイクに加え、乗馬やハイキングなど多彩なアウトドア体験を楽しめます。森の中に点在するトレイルや施設が整備されており、家族連れから本格的なアウトドア愛好者まで、幅広い層に親しまれています。さらに今年からは、新ルールの導入により、公園内のほぼすべての自転車道で電動アシスト自転車(e バイク)の利用が可能となりました。これにより、従来は走行できなかった自然の中のトレイルでも電動アシスト自転車を使用できるようになり、初心者から上級者まで、自分のペースに合わせた快適なサイクリングを楽しめるようになっています。

宿を巡る新たな自転車旅「イン・トゥ・イン・バイキング」、全米各地で拡大中

サイクリストの間で近年注目を集めているのが、毎晩異なる宿に滞在しながら自転車で地域を巡る「イン・トゥ・イン・バイキング」と呼ばれる旅のスタイルです。欧米を中心に人気を集めており、土地ごとの文化や自然をより深く体感できる手段として、多くの人々に支持されています。このスタイルでは、ガイド付きまたはセルフガイドのツアーから選ぶことができ、自分のペースで気ままに走るだけでなく、志を同じくするサイクリストたちと小規模グループで旅を楽しむことも可能です。毎晩、その地域ならではのホテルや宿に滞在しながら、田舎道や風光明媚なルートをのんびりと走ることで、ストレスフリーなサイクリング旅を満喫できます。荷物は自分で持ち運ぶこともできますが、専用のサポートバンが同行し、大きな荷物を預けて身軽に走れるプランも人気を集めています。より快適に旅をしたい方にとっても魅力的なスタイルです。

ディスカバリー・バイク・ツアーズ、ポコノ・バイキング、ワイルダネス・ボヤジャーズなどの旅行会

社では、数日間にわたる「イン・トゥ・イン・バイキングツアー」を提供しており、初心者から経験豊富なサイクリストまで、幅広いニーズに対応しています。

全米の州立公園・国立公園を自転車で巡るサステナブルな旅

州立公園や国立公園を自転車で訪れる旅は、自然との調和を大切にする新しい旅行スタイルとして注目されています。特にハイシーズンには、園内の渋滞や交通混雑を避ける手段として、自転車の活用が推奨されています。こうした公園内のバイクルートには、車両や歩行者と共有する道も多い一方で、自転車専用または車両の通行が制限されたルートも各地に整備されており、目的やレベルに応じたサイクリングが楽しめます。なお、自転車で訪れる場合も、州立公園および国立公園では入園料の支払いまたは有効なパークパスの提示が必要となります。今後の旅行計画において、こうしたルールやルート情報を事前に確認することをおすすめします。

環境整備が急速に進む、誰もが楽しめるアダプティブ・サイクリングの世界

身体的な制限がある方でも安心して楽しめる「アダプティブ・サイクリング（適応型サイクリング）」の環境が、アメリカ各地で急速に整備されています。専用のバイクに対応したトレイルや、地域コミュニティによる支援プログラム、ミートアップ、さらにはロードレースやタイムトライアルなどの競技大会まで、多様なプログラムが用意されています。バーモント州ボルトンには、「ドライビング・レンジ」と呼ばれる全米屈指のアダプティブ・マウンテンバイク専用トレイルがあり、段階的に難易度が上がるコース設計に加え、橋やスロープなどの多彩な要素が組み込まれた本格的なコースとして注目を集めています。さらに、ユタ州パークシティの「ウッドワード・パークシティ」や、カリフォルニア州サンディエゴの「ブラックマウンテン・アウィー・トレイル」も、アダプティブ・サイクリストに人気のスポットとして広く知られています。

また、アダプティブ・サイクリング界における重要な大会とされる「アダプティブ・マウンテンバイク世界選手権」が、本年9月5日から7日にかけて、コロラド州クレストッドビュー・マウンテンで開催される予定です。スキルを競い合う場であると同時に、世界中の仲間と交流できる貴重な機会として、国内外から高い関心を集めています。

潮風を感じる、新しい旅のスタイル「ビーチ・クルージング」

全米に広がる美しい海岸線では、海辺の景観を楽しみながらサイクリングができる“ビーチ・クルージング”が人気を集めています。舗装された遊歩道に加え、一部の地域では砂浜そのものを自転車で走行することも可能で、幅広い層の旅行者に楽しまれています。砂浜での走行には、極太のタイヤを装着したファットバイクが適しており、各地のレンタルショップでは、一般的な自転車や電動アシスト自転車と並んで貸し出されています。

走行ルートや規制は地域ごとの条例に基づいて整備されており、安全面にも十分に配慮されています。太平洋や大西洋、メキシコ湾岸など、それぞれ異なる表情を見せる海辺の風景を、自転車ならではの目線で堪能できるのも大きな魅力です。

自転車で海へ、ビーチへ続く絶景トレイルが全米で人気拡大中

アメリカには、美しい自然公園や野生動物の生息地を通り抜けた先にビーチが広がる、魅力的なサイクリングルートが各地に整備されています。緑豊かなトレイルと潮風が香る海辺の景色、その両方を一度に楽しめるのが、“バイク・トゥ・ザ・ビーチ”スタイルならではの楽しみです。

たとえば、デラウェア州南部に位置するゴードンズ・ポンド・トレイルは、ケープ・ヘンローペン州立公園内に広がる約 3.6 平方キロの塩性湿地を走る、全長約 8 キロの往復型トレイルです。このルートは、穏やかな森林地帯と湿地を通る風光明媚な自転車道、ブレイクウォーター＝ジャンクション・トレイルにも接続しており、車の通らない並木道を通って、ルイスとリホボスビーチという 2 つの人気ビーチタウンを結んでいます。途中には、第二次世界大戦当時の監視塔や防空壕跡などを保存したフォート・マイルズ博物館および歴史地区もあり、自然と歴史の両方を満喫できます。トレイルの終点であるリホボスビーチでは、老舗店「コー・ブラザーズ」のフローゼンカスタードを味わいながら、ひと休みするのもおすすめです。

このほかにも、ビーチまで続く絶景サイクリングルートとして、ロサンゼルス太平洋沿岸を約 35 キロにわたって結ぶ「マーヴィン・ブラウデ・バイクトレイル」や、フロリダ州サニベル島の自然豊かな「サニベル・アイランド・トレイル」、ワシントン州ポートタウンゼントからラ・プッシュまでを走る「オリンピック・ディスカバリー・トレイル」などがあり、それぞれ異なる風景と魅力を存分に楽しむことができます。

地元グルメと出会う、新たな地域体験「グルメ・サイクリングツアー」

全米各地では、自転車での移動と食体験を組み合わせた「グルメ・サイクリングツアー」が人気を集めています。地元の料理や文化に触れつつ、移動の合間やツアーの終盤には、その土地ならではのグルメやドリンクを楽しめるのが魅力です。

ニューメキシコ州サンタフェでは、郷土料理と文化を語りと試食で巡る「フレイバーズ・オブ・サンタフェ・バイクツアー」が実施されており、メキシコ系と先住民文化の融合を体感できます。また、街のシグネチャーカクテル「マルガリータ」に焦点を当てた「サンタフェ・マルガリータ・トレイル・バイクツアー」も好評で、サイクリングの合間や終了後に立ち寄れるよう配慮されたコース設定となっています。

イリノイ州シカゴでは、「ボビーのバイクハイク」によるツアーで、ディープディッシュピザをはじめとする地元の味覚を堪能できます。オレゴン州ポートランドでは、街中に点在する多国籍なフードトラック(屋台料理)を巡るサイクリングツアーが人気を集めています。地元で親しまれている「フードカート・オブ・ポートランド」と呼ばれるこのツアーでは、さまざまな国の味を楽しみながら市内を自転車で巡ることができます。さらに、フロリダ州南部のアメリア島では、地元の食文化や地域の歴史に触れながらサイクリングを楽しめる「フード&バイクツアー」が催行され

ています。

ワインやスピリッツをテーマとしたツアーも各地で展開されています。ニューヨーク州の「ハドソンバレー・ワイナリー&ディスティラリー・バイクツアー」では、田園地帯を巡った後にワイナリーや蒸留所でのテイスティングが楽しめます。このほか、オクラホマシティのクラフトビールを巡るツアーや、ケンタッキー州の「ケンタッキー・バーボン・トレイル」サイクリングルートなど、各地の特色が生かされたプランが揃っています。

これらのツアーは、バックローズ社やワイルダネス・ボヤジャーズ社などによって企画されており、ツアー中の飲酒タイミングにも配慮されているため、初心者から上級者まで安心して楽しむことができます。

廃線跡が生まれ変わる、全米で進化する「レイル・トレイル」

アメリカでは、かつて鉄道が走っていた廃線跡を再活用した「レイル・トレイル」が、サイクリングやハイキング、ウォーキングなど多目的に楽しめるトレイルとして人気を集めています。高低差が少なく整備されたフラットな道が多いため、年齢や体力に関係なく、多くの人が自然の中でアクティブに過ごせるのが魅力です。

中でも注目されているのが、ワシントン D.C.からワシントン州まで全長およそ 5,950 キロにおよぶ、「グレート・アメリカン・レイル・トレイル」です。アメリカ大陸を横断する歩行者やサイクリスト向けの、複数用途に対応した長距離トレイルとして整備が進められています。現在はそのうち半分以上にあたる約 3,050 キロがすでに開通しており、ハイカーやサイクリスト、歩行者に開放されています。ワシントン D.C.内では、米国議会議事堂を起点に、ジョージタウン地区のキャピタル・クレセント・トレイルへと続くルートが、現時点で 100%整備された区間となっています。

このほかにも、アメリカ各地には個性豊かなレイル・トレイルが点在しています。たとえば、ペンシルベニア州ピッツバーグからメリーランド州カンバーランドまで約 240 キロを結ぶ「グレート・アレゲニー・パッセージ」、ウィスコンシン州にある全長約 52 キロの「エルロイ・スパルタ州立トレイル」、アイダホ州とモンタナ州の州境を走る約 24 キロの「ルート・オブ・ヒアワサ」、デラウェア州南部の「ジョージタウン＝ルイス・トレイル」などが人気を集めています。

また、アラバマ州バーミングハムでは、「レッドロック・トレイル・システム」の一環として、市中心部の「レイルロード・パーク」や、フルトンデールからブルックサイドまでを結ぶ「ファイブ・マイル・クリーク・グリーンウェイ」など、鉄道の歴史を感じさせる歩行者・サイクリスト専用の緑の遊歩道が整備され、地元の人々にも親しまれています。

ガイド同行で安心・快適に、全米で広がる充実のバイクツアー体験

サイクリング旅行において「一人では不安」「快適に旅を楽しみたい」といったニーズに応える

のが、ツアー会社によるガイド付きの複数日程バイクツアーです。経験豊富なガイドの同行や参加者同士の交流、高品質な宿泊や食事がパッケージされており、初心者から上級者まで幅広い層に人気を集めています。

また、ラグジュアリー志向や利便性を重視したサイクリングツアーも人気を集めています。たとえば、デュヴァイン・サイクリング・アドベンチャー社が提供する「カリフォルニア・コースト・バイクツアー」は、モントレー、ビッグサー、カーメル、サンタバーバラといった美しい沿岸都市を巡る4日間の贅沢なプランとなっています。高級ホテルでの宿泊、ワイナリー巡りやビーチでのサンセットディナーも組み込まれており、日中は1日あたり約40～95キロを爽快に走り抜けます。

また、全米で20種類以上のサイクリングコースを展開するバックローズ社も注目のツアー会社のひとつで、カリフォルニア州デスバレーを舞台にした4日間のサイクリングツアーでは、神秘的なメスキート・フラット砂丘や、陰影が美しいゴールデンキャニオンの地形を探訪しながら、アメリカ南西部の雄大な自然を体感できます。一部のコースでは電動アシスト自転車も利用することができます。よりリラックスした旅をご希望の方には、マサチューセッツ州のマーサズ・ヴィニヤード島やナンタケット島を電動アシスト自転車で巡る「ドルチェ・テンポ・シリーズ」もおすすめです。通常のツアーよりもゆったりとしたペースで進む初心者向けのプランです。さらに、ヴィー・ビー・ティー社もアメリカ国内の各地でガイド付き・セルフガイドの両プランを提供している老舗のサイクリング専門会社です。同社は、メイン州、バーモント州、メリーランド州、コロラド州、アリゾナ州、ユタ州など、自然豊かなエリアで個性豊かなツアーを展開しています。

各地で拡大する「バイクシェアプログラム」、観光と地域回遊の新たな足として定着

バイクシェアプログラムは、アメリカ各地で広く導入されている、地域の日常や文化を気軽に体験できる移動手段です。街中に設置されたステーションで自転車を一時的にレンタルできる仕組みで、手頃な料金と高い利便性から、観光客はもちろん地元の人々にも支持されています。代表的なサービスには、ニューヨーク市を中心に展開する「シティバイク」のほか、「ライム」「バード」「リフト」などがあり、いずれもアメリカ国内外のさまざまな都市で利用可能です。

さらに、州立・国立公園内では、訪問者向けに無料のバイクシェアプログラムが増えており、より気軽に大自然を楽しむことができます。たとえば、カリフォルニア州のヨセミテ国立公園、アラバマ州のガルフ州立公園、昨年夏にeバイクを導入したコロラド州のチャットフィールド州立公園、ニューヨーク州のナイアガラ・フォールズ州立公園、そしてテキサス州のサンアントニオ伝道所国立歴史公園などがその例です。

多くの公園では、専用アプリをダウンロードするだけで簡単に利用が可能です。無料で提供されているケースも多く、旅先でのアクティビティとしても手軽に楽しめます。ただし、2時間以内の利用制限や日中のみ利用可能など、条件が設けられていることもあるため、事前の確認がおすすめです。

また「シティバイク」では、ニューヨーク市内にて、ビギナー向けの無料サイクリングイベント「ウィークリーツアー」を本年 9 月下旬まで定期的で開催しています。地元の経験豊富なサイクリストとともに走ることで、初めての方でも安心して参加でき、自転車の扱い方や街なかでの走行に必要な基本スキルを楽しく学ぶことができます。

アメリカでのサイクリングに関する留意事項

アメリカでの自転車旅行を計画されている方は、事前の準備をしっかりと行うことをおすすめします。ご自身の自転車を持参する場合は、航空会社によって手数料や運搬条件が異なるため、出発前に各社の規定を確認しておくとう安心です。

また、一部の州立・国立公園では、入園料などの支払いが現金のみとなっている場合があります。電子決済が利用できないケースに備え、少額の現金を用意しておくとう便利でう。さらに、自転車の駐輪については、十分な強度のロックを使用するとともに、法令に基づいた安全な場所を選ぶようご注意ください。盗難防止のためにも、確実に施錠し、適切な管理を心がけることが大切です。

アメリカでのサイクリング体験に関する詳細情報や旅行計画に役立つ最新情報は随時、公式ポータルサイト「AmericaTheBeautiful.com」にて公開予定です。

「アメリカには、スリリングなマウンテン・トレイルや美しい海岸線を走るルート、グルメを楽しむツアーや都市のサイクリングルートなど、実に多彩なサイクリング体験が揃っています。どの季節、どの地域を選ばれても、皆さまにはアメリカならではの豊かな文化や温かく迎える各地の街々、そして無限のレクリエーションの可能性を体感していただけることでしょう。皆さまのご訪問を心よりお待ちしております。」(ブランド USA のプレジデント兼最高経営責任者(CEO)、フレッド・ディクソンのコメント)

■ ブランド USA について

アメリカ合衆国の公式観光促進団体であるブランド USA は、アメリカを世界有数の旅行 destinations として訴求し、国外から旅行者に対しアメリカの観光施策を伝達することをその目的として、旅行促進法に基づき、アメリカ初の半官半民の事業体として設立されました。ブランド USA は、業界や政府機関との連携を通じて、データに基づいたキャンペーンや一貫したメッセージの発信を行い、アメリカの最新情報やビザ、入国関連の情報を含む旅行者向けのリソースを提供しています。ブランド USA は、設立以来の 12 年間にわたり、旅行業界のパートナーと連携して実施してきたマーケティング施策により、訪米旅行者を 1,030 万人増加、約 350 億ドル(約 5 兆 2,500 億円 1 ドル=150 円換算レートにて計算)の消費を創出し、その経済効果は累計で 760 億ドル(約 11 兆 4,000 億円)に達し、年間平均で約 4 万件の雇用を支え、100 億ドル(約 1 兆 5,000 億円)の税収を生み出しています。これらの取り組みはすべて、米国納

税者の負担なしで実現されており、投資 1ドルあたり 20ドル(約 3,000 円)の経済的リターンを生み出しています。

当リリースに関するお問い合わせ先

ブランド USA 日本事務所（広報担当：早瀬、水口、野間）

TEL:03-6261-5385 E-mail:BrandUSAJapan@aviareps.com